

二年生分散会

自己紹介

報告(要旨のみ)

大麻中Y……いじめた経験と人の気持ちについて

『中学校に入學してから、いじめをしたことがある。悪口を言ったり、蹴ったりなど。人の気持ちを考えないでやっていた。家に謝りに行ったこともある。親はとても怒っていて、いじめられた子の親の気持ちがよく分かった。』

板野中S……差別体験と残っている差別について

『僕は今まで差別をされたことはないが、したことはあると思う。だれかを除け者にしたたり、仲間外れにした。人の気持ちを考えてなかったからだ。このことは親にも話していない。中学生生活は楽しいが、心配事がある。それは、部落差別が残っているかどうかということだ。』

意見交換(要旨のみ)

司会者 いつ頃から部落問題について家庭で話し始めまし

たか。またどんな話をしましたか。自分の考えはどうですか。

吉野中M 親の昔のこと(高校時代)や、苦しかったときのことを話している。

吉野中T この会のあと、親に話を聞いてもらう。

板野中A 今日の会について、「がんばって意見をだして

こい」と親が言ってくれた。

板野中O この会の参加者は、希望者もいれば、発表の關係で来た者もあるだろう。学習会参加者がほとんどだと思いが、学習会内だけでなく、部落外の人にも伝えていなくては差別はなくなる。東京などの都会で暮らす人の多くは部落問題を知らないらしい。全国に訴えなければ部落差別はなくなる。行動に移さなければ始まらない。そして、人間が作ってきた差別だから、なくなると思う。「学習会がうらやましい」と言う子に対して「変れるもんなら変わりたい」と言いたい。親の苦労も知ってきたし、意見を言うことによつてがんばりたい。しかし、全部の差別はなくなるには思う。「変わるものなら」という気持ちでいることが重要だと思う。やる気を失ってはいけない。自分の姉は、交際相手の親か

ら冷たくされ、嫌な思いをしていた。その親にはわかっ
てもらえなかった。一番上の姉は部落出身とは言いにく
かったが、交際相手には分かかってもらえた。もう一人の
姉も言い出しにくく思っている。相手が部落を理解して
いないと思うと、余計言えない。しかし、結婚するとな
ると、言わなければいけない。

司会者 Oさんの意見を受けて、自分の親が間違った差別
意識を持つていると気づいたとき、どうしますか。

(不明) 自分のことを一番わかってくれるのは親。だから
言えない。一生懸命働いている両親、それを否定するこ
とになるから言えない。

司会者 それでは、身近な人の考えについてみんなはどう
ですか。

吉野中K 言えるし、言うべきである。親のためにも。

司会者 親は消極的ということばを聞きますが、本当にそ
うですか。

阿南中教師 自分たちの苦勞を子に伝えたくないから、社
会をよく知っているから、処世術としてそうなっている
のであって、間違った考え方をしている、消極的である
とは言い切ることはできないのでは。解決の難しい問題

であるがゆえに、親も悩んで試行錯誤をくりかえしてい
る。子にはそんな親の姿も感じてほしい。

板野中O 親の気持ちもうれしいが、親の一方的押しつけ
はイヤ。毎日学習したことや出来事を話したらわかって
くれる親がうれしい。親と同じ経験をして、感じ方は
違いかもしれないし、学習にもなるのでは。自分がまち
がってると思ったら、次の代にそれを伝えたい。

司会者 中学校生活を充実させるために、満足している面
や満足していない面を出し合いましょう。

吉野中K 満足、不満足に思っていることはない。

吉野中T 友人が悩んでいる。「私が部落の人と結婚した
らどうする？」という問いに対して、親に「反対する」
と言われたため。親とは部落差別についていろいろ話し
合ってきたのに、なぜ？という気持ちがあるらしい。

吉野中M 自分の意見を言えず、ちよつと窮屈な毎日。吉
野中はほとんどが地区生。半分くらいの生徒が学習会に
参加している。しかし、自分が行っておらず、「なんで
部落やのに学習会行かんのな」と陰で言われているのが悔
しい。

司会者 吉野中Tさん、Mくんに対する意見はありません

か。

板野中 O 両親は説得できても、結婚は親戚も関わってくる。自分の家だけの問題ではなく、親は親戚との関わりを考えて反対する場合もある。逆に、反対する父親を、親戚が説得した家も知っている。解決の道はある。少しずつ訴えてゆくことが大切ではないか。

豊中中 全部が全部信用できない教師ばかりじゃない。豊中中の先生は、みんな相談に乗ってくれる。

司会者 全部が全部信用できない教師ばかりじゃないのではないですか。吉野中では真剣に何でも考えてくれる先生はいますが、考えてくれない先生もいます。他の中学校ではどうですか。

上板中 O 上中では私たちのために厳しく接してくれていて、素直に聞かなければと思う。なかなかできないが、いい先生ばかりだと思う。

応神中 考えてくれる先生はよく考えてくれるが、ノータッチの先生もいる。

板野中 Y 学習会での学習など、うっとうしく思うこともあるが、自分たちのためなので素直に聞かなければと思う。

日和佐中 先生はいつも一生懸命。

豊中中 東京では部落という言葉を知らないということに對して、地域によって同じ県内でも、部落差別について真剣に学習している学校もあれば、ない学校もある。今、自分たちの周囲には差別について真剣に考えている人の方が多いが、高校、社会に出れば、その逆になる。せっかく中学で学習していても、社会で実際に差別的発言に接したときに、活かせない人がでてくるのではないだろうか。

(不明) これから高校へ進学するが、そこで部落のことを悪く言う人がいるかもしれない。その人に「自分は部落出身である」と言うとはかにしたように言われるのでは、悔しい。その時、自分は注意することができるだろうか」と心配。

(不明) 部落問題について勉強している人は少なく、差別問題を軽く見る人がいる。

司会者 そういう状況に、どう対処すればいいと思いますか。

(不明) 仲間を増やして注意をする。

応神中 部落外の人が、部落の人を本当はどう思っている

のかを知りたい。

(不明) 部落内にいるときは、差別に気づかない。部落外へ出たとき、差別を知る。部落出身であるということが知られていない状態のとき、相手は世間話などの中で部落に対する本音を話す。

司会者 今日のとめや感想を発表してください。

(不明) 発表を聞いてよかった。

(不明) 自分の話を聞いてもらえてよかった。